

実習に活かされる授業のあり方について

—「音楽Ⅲ」・「表現の指導（音体）」の授業を通して—

大野 恵美^a 多胡 綾花^a

^a 湘北短期大学保育学科

【抄録】

本研究では、保育学科2年生を対象にアンケート調査を行うことによって、授業がどのように実習に活かされているのかを探った。調査によって、学生の100%が授業の学びが実習に反映されていると回答し、授業が実習に活かされていると確認できた。日々の授業にむけて、教員の努力と工夫が求められる。

【キーワード】

実習 保育内容「表現」 授業

I. はじめに

短期大学において、「幼稚園教諭免許」「保育士資格」を取得する学生は二年間という短期間で、実践的な仕事を行うための即戦力を身に付ける必要がある。個々の学生が日々の学習力を確認し、学びを高める機会の一つとして実習が行われる。その気づきの一步として、教育実習での活動を学生がどのようにとらえているかについて検証し、今後の授業のあり方や実習に活かされる授業にむけて、課題を探るものである。

II. 研究目的

本研究では、保育学科2年生129名を対象にア

ンケート調査を行うことによって、授業がどのように実習に活かされているのか、活かされていない部分はどのような要素なのか、指導上の課題を探ることを目的とする。

III. 研究方法

1. 調査方法・対象・時期

- ① 方法
質問紙調査法
- ② 調査時期
2016年7月（神奈川県A市）
- ③ 調査数
有効回答129名（配布数130枚）

2. 協力者の属性

表1 性別

勤務先	人数
女子	128名
男子	1名
合計	129名

<連絡先>

大野 恵美 m-oono@shohoku.ac.jp
多胡 綾花 a.tago@shohoku.ac.jp

表2 実習園について

性別	人数
公立	20名
私立	109名
計	129名

表3 実習園の地域

地域	人数
神奈川県	117名
静岡県	8名
東京都	2名
それ以外	2名
計	129名

本学養成校は男女共学であるが、協力者の学年は男子学生が1名しかおらず、学年のほとんどが女子学生であった。90.8%が私立幼稚園で、15.5%が公立幼稚園で実習を行った。地域別では、神奈川県が最も多く(90.7%)で、静岡県(6.2%)、東京都(1.6%)での実習もあった。なお、実習園の選択は、1年次の4月に学生が第3候補まで希望園を提出する。それをもとに担当教員が実習園に依頼し、実習園を決定していく。

3. 質問内容

1. 責任実習で行った内容
2. 部分実習で行った内容
3. 授業での学びが実習に反映されたか
4. ピアノの課題
(有無・時期・曲・曲目)
5. 実習の準備はできていたか
 - ・できていた→その内容
 - ・できていなかった→その理由

IV. 結果及び考察

1. 責任実習で行った内容

責任実習とは、実習の最終段階で計画・実施される終日実習で、実習生が学級担当の役割を担い、

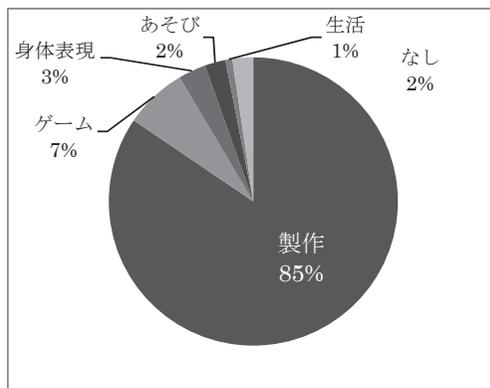


図1 責任実習で行った内容

一日の責任を持って取り組む仕上げの段階での実習である。担任の指導を受けて「一日の指導計画」を作成し、登園から降園までを受け持つ。

実習生が図1のように、責任実習の主活動において、85%の学生が「製作」を行っていることが分かった。その他「ゲーム」(7%)「身体表現」(3%)「あそび」(2%)「なし」(2%)「生活場面の指導」(1%)となっている。このことから、責任実習の主活動で「製作」を行っていることが多いことが分かった。

その内訳は以下のようなものであった。

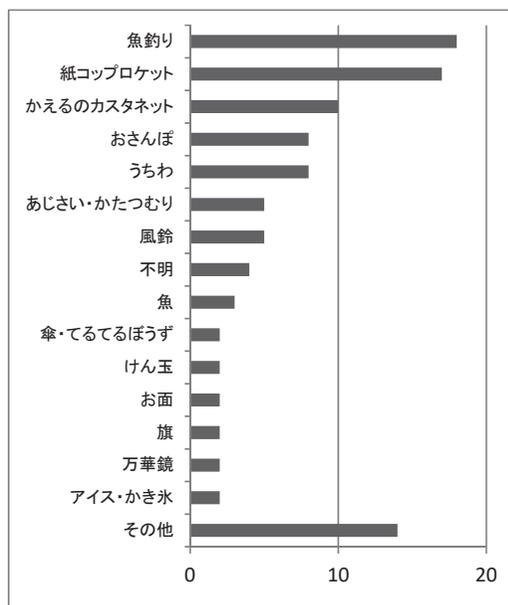


図2 製作の内訳

(単位:名)

6月という時期もあり一番多いのが、作って遊ぶことができる「魚釣り」(18名)であった。次に同じく、飛ばして遊ぶことができる「紙コップロケット」(17名)となった。3番目は、作って演奏できる「かえるのカスタネット」(10名)となっている。次に「おさんぽ」という、粘土とゴムの動力で動くおもちゃとなった。次いで、季節感が感じられる「うちわ」「あじさい」「かたつむり」「風鈴」となっている。製作においては、作って遊ぶことや季節を取り入れた指導案立案をしている学生が多かった。

2. 部分実習について

部分実習とは、一日の比較的まとまりある生活や活動に焦点を置いて、体験的に指導に取り組む実習である。部分についての「指導計画」(指導案)を作成し、実習終了後に振り返りを行う。

学生たちの部分実習の実践内容について見ていく。

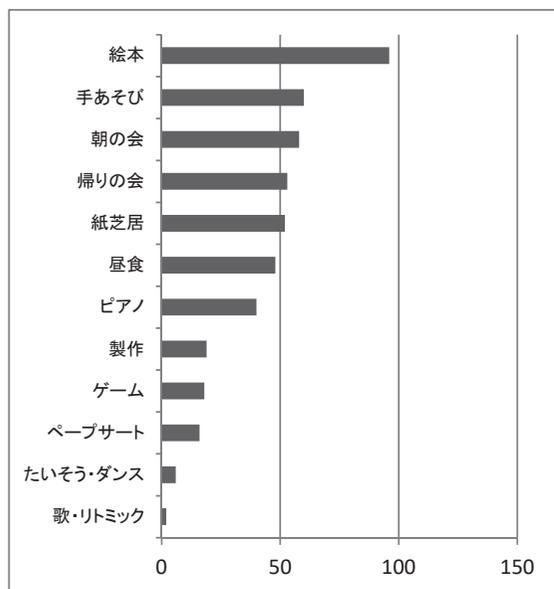


図3 部分実習の内容

(単位:名)

学生たちの部分実習の実践内容としては、「絵本」が一番多く(96名)、7割の学生が教育実習で経験したと回答した。次に、「手あそび」(60名)となり、「朝の会」(58名)「帰りの会」(53名)「昼食」(48名)「ピアノ」(40名)「製作」(19名)と、一日の流れのどこかを担う部分実習を経験している。その他、「ゲーム」の指導や「ペープサート」の披露など、学びの場を頂いている学生もいた。

以上から、部分実習では、全日実習にむけて、一日の教育内容を部分的に経験するように計画されている。その体験を通して、部分実習の留意点や反省点を、責任実習に活かすことができ、段階的に担任としての仕事を学ぶことができる。学生たちも一日全体の流れをイメージしながら、任された時間を実践する必要がある。また、いかに失敗を怖れず、部分実習の経験を積めるかが大切となってくる。養成校での事前準備や指導において、そのことをしっかり伝え、心構えを持たせて実習に送り出したい。

3. 授業での学びと実習への反映

授業での学びが実習へ反映されたかという質問の結果は以下の通りになった。100%の学生が授業での学びが実習へと反映されたと回答した。

表4 授業での学びと実習への反映

内容	人数
反映されなかった	0名 (0%)
反映された	129名 (100%)
合計	129名

それでは、どの点が反映されたのか、詳細をまとめたものが表5である。

表5 授業での学びが実習に反映された内容

内容(授業)	人数
手あそび(音楽Ⅱ)	34
絵本の読み聞かせ方(言葉の指導)	27
ピアノ・弾き歌い(音楽Ⅰ)	24
模擬指導(幼児体育)	21
模擬指導(造形)	20
子どもの発達(講義)	14
模擬指導(音体)	12
トラブル場面(講義)	11
日誌・指導案の書き方	9
模擬指導全体	14
マナーや礼儀	3
その他	7
詳細記載なし	13

(単位:名)

授業の学びが実習に反映された内容として挙げられたのが、「手あそび」(34名)「絵本の読み聞かせ方」(27名)「ピアノ・弾き歌い」(24名)「模擬指導(幼児体育)」(21名)「模擬指導(造形)」(20名)「模擬指導(音体)」(12名)と、実技的内容が上位を占めた。実技系科目において、現場を想定し、必要な学びを授業で用意している証拠であり、本学科の特色である「実践力」の育成とも繋がる。

加えて、「子どもの発達」(14名)や「トラブル場面」(11名)など、講義で学んだ内容を挙げる学生もおり、講義系科目においても、実習に直結して学びの定着が図られるように授業を工夫し、展開していると推察できた。

二年間という短期大学の学びにおいて、現場ですぐに役に立つ実践的能力とその後の保育や幼児教育を支える理論や知識の両方を身に付けることはとても難しい。が、今回の調査結果から、各科目の教員が現場を踏まえての授業を展開し、現場に繋がる指導を心掛けている点が浮かび上がった。教育実習という場で養成校での学びが反映されたとすべての学生が回答している点において

は、各教員の努力の賜物であると考えられる。

4. ピアノの課題について

(1) ピアノの課題の有無

ピアノの課題の有無について、次のようになった。

- ・課題があった学生：111名/129名
- ・課題がなかった学生：18名/129名

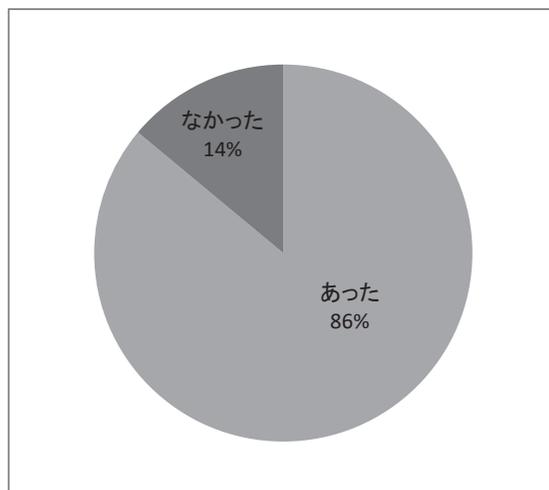


図4 ピアノの課題の有無

図4のように、実習での8割強の学生がピアノの課題があったと回答している。

(2) ピアノ課題が出された時期と経験値・曲数・曲名

課題が出された時期については、以下の通りである。

- ① 実習前に課題が出た：74名/112名
- ② 実習前及び実習中にも課題が出た：23名/112名
- ③ 実習中に課題が出た：14名/112名

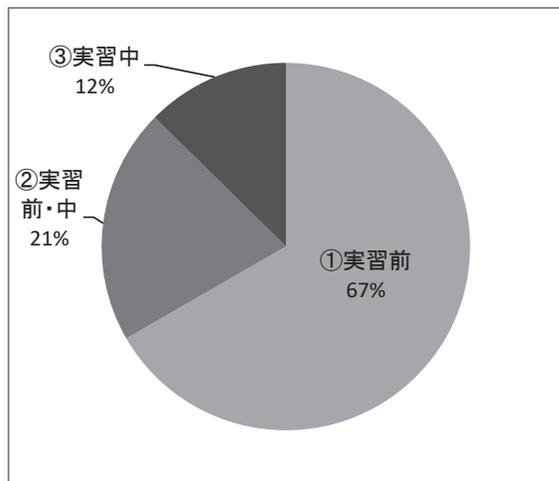


図5 ピアノ課題の時期

67%の学生が実習前に課題を受け取っているが、2割の学生が実習中に課題を受け取っているという点に注目したい。ピアノ経験が十分ある学生の場合は、実習中に課題を渡されても対応は可能であるが、ピアノが初心者で入学した学生や経験年数が少ない学生では課題習得に時間が必要になる。

各群について、見ていく。

①実習前に課題が出た群について

経験値と課題曲数は以下の通りである。

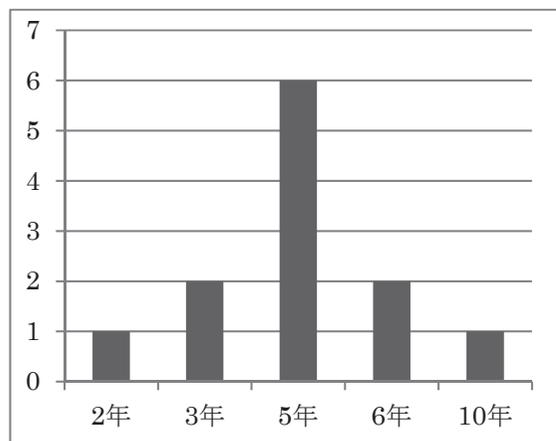


図6 ①実習前 ピアノ経験 (単位:名)

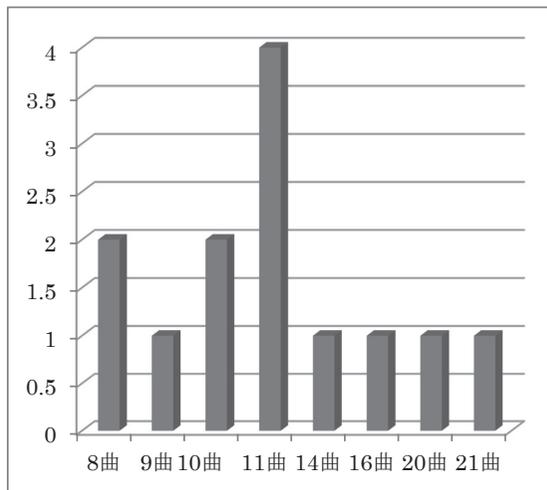


図7 ①実習前 ピアノ課題曲数 (単位:名)

そして、出された課題曲は以下の通りである。

表6 ①実習前 ピアノ課題曲名

生活のうた	季節のうた (童謡)	その他
おべんとうのうた	時計のうた	園歌
おかえりのうた	あめふりくまのこ	讚美歌
おはようのうた	はをみがきましよう	仏歌
さよならのうた	かたつむり	キャンプでホイ
こもりうた	大きな古時計	ゆかいなまきば
夜が明けた	虹のむこうに	畑のポルカ
あさのうた	雨だれほったん	線路は続くよどこまでも
おかたづけ	すてきなパパ	やきいもゲーチーパー
おねむりのうた	たなばたさま	(8曲)
ピーマーチ	おつかいありさん	
お当番さん	しゃぼん玉	
むすんでひらいて	にじ	
おへんじはい	くじらのとけい	
おててをあらいましよう	にやにゆによの天気予報	
なんでもたべのこ (15曲)	おばけなんてないさ	
	アイスクリームのうた	
	ゆりかご	
	むしばけんせつかぶしきがいしゃ	
	ながぐつくん	
	トマト	
	アイアイ	
	ドレミのうた	

生活のうた	季節のうた(童謡)	その他
	星に願いを	
	うたえパンパン	
	青空マーチ	
	めだかの学校	
	手のひらを太陽に	
	うみ	
	かっぱがわらう	
	ぼくのミックスジュース	
	ヤッホッホ夏休み	
	ふしぎなポケット	
	みずあそび	
	バスごっこ	
	とんぼのめがね	
	おかあさん	
	青空マーチ	
	うみ	
	かえるのうた	
	クラリネットをこわしちゃった	
	さんぽ	
	世界中のこどもたちが	
	あらどこだ	
	人間っていいな	
	せっけんさん	
	(35曲)	

表6のように、上記の曲目のうち「生活の歌」特に「おはようのうた」「おべんとうのうた」「おかえりのうた」については1年次に習得することを促し、多くの学生が基本的な演奏をマスターしている。童謡についても、1年次に季節の曲目は演奏できるように指導を行っている。が、アンケートからは季節の曲だけではなく幅広い童謡が扱われている点、又「その他」の賛美歌・仏歌などは複数の曲が存在し、実習までの短期間で習得する為にはかなりの練習時間の確保が必要となる。実習園により扱われる曲目は全く異なり簡易伴奏の楽譜を用いていることもあるが、オリジナルの楽譜で演奏を行う場合は、ピアノの経験値がある学生にとっても実習の準備には多くの練習時間の確保が求められる。

② 実習前及実習中に課題が出た群について
経験値と課題曲数は以下の通りである。

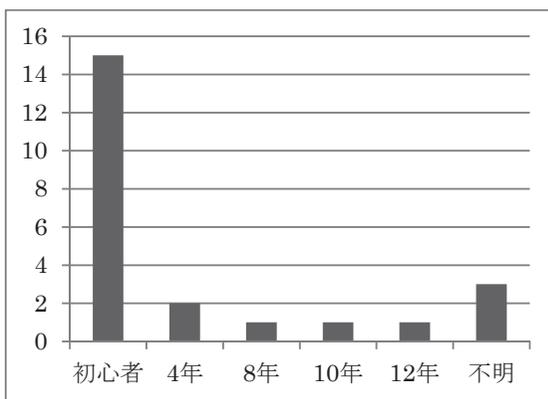


図8 ②実習前・中 ピアノ経験 (単位:名)

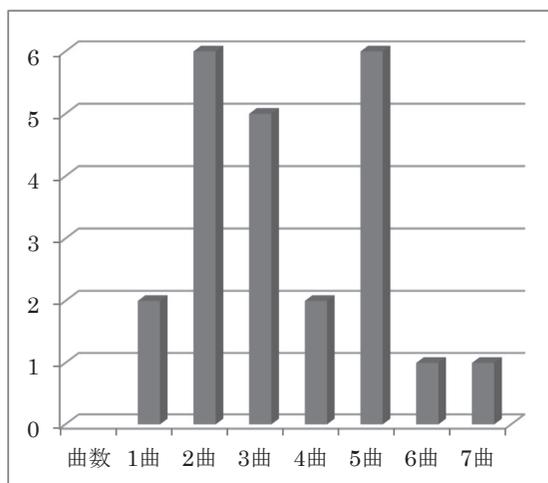


図9 ②実習前・中 ピアノ課題曲数 (単位:名)

実習前及び実習中に課題が出た課題曲は以下の通りである。

表7 ②実習前・中 ピアノ課題曲名

生活のうた	季節のうた(童謡)	季節のうた	その他
お当番さん	あめふりくまのこ	ハンカチのうた	園歌
おかたづけ	バスごっこ	くじらのとけい	
さようならのうた	さんぽ	大きな古時計	
おねむりのうた	かえるのうた	宇宙船のうた	
夜が明けた	はをみがきましよう	アイアイ	

実習に活かされる授業のあり方について

生活のうた	季節のうた(童謡)	季節のうた	その他
マーチ むすんでひらいて 汽車ぼっぼ (8曲)	にじ にじのむこうに バナナの親子 南の島のハメハメハ (17曲)	にやにゆによる天気予報 アイスクリームのうた おばけなんてないさ (8曲)	

表7のように、事前の課題以外にも、実習中に複数の曲目を渡される場合がある。今回の課題からは、季節に関連した童謡が主な内容になっている。曲数も5曲以内が殆どで、それ以上が若干数である。ピアノ経験値については、初心者が65%と半数を上回っている。短大入学後にピアノ実技を初めた学生にとっては、かなりの努力が必要となる。

③実習中に課題が出た群について

経験値と曲数については、以下の通りである。

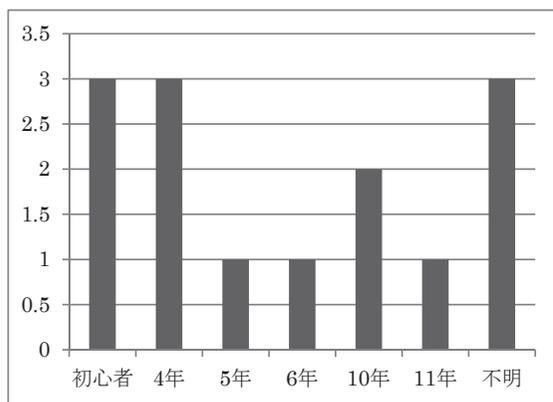


図10 ③実習中 ピアノ経験 (単位:名)

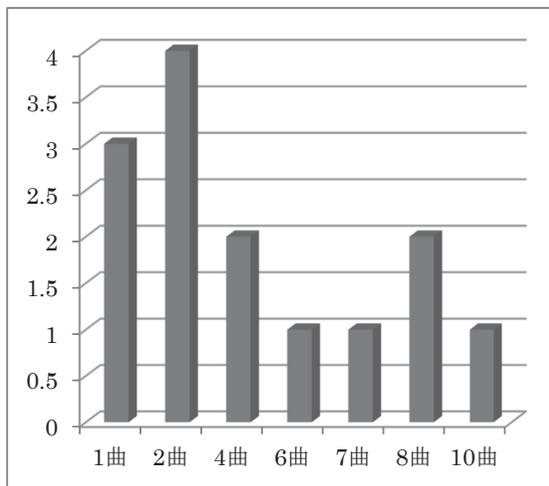


図11 ③実習中 ピアノ課題曲数 (単位:名)

表8 ③実習中 ピアノ課題曲名

生活のうた	季節のうた(童謡)
あさのうた	かたつむり
お弁当のうた	虹
おねむりのうた	だからあめふり
おかえりのうた	しゃぼんだま
先生とおともだち	たなばたさま
こもりうた	うみ
起きよ	くじらのとけい
キラキラ星	はをみがきましよう
人形の夢と目覚め	さんぽ
なんでも食べる子 (10曲)	山の音楽家 (10曲)

実習中に出示された課題内容は、「生活の歌」「季節の歌」などの20曲である。この内容については、学生が日々練習を行い曲目の習得を目指すことで演奏を可能にできると考える。しかしこの場合は、あくまでも教育実習の事前準備として1年次から計画的にすすめることが求められる。実習中帰宅後については、日誌の記録だけで実技の練習をする時間の確保は難しい。実習生は毎日確実に実習日誌を提出することが責務であるため、実技課題の練習は、実習前に実習ラウンジなどを活用し、実習園の状況を把握し、個々のスキルアップを行うことが肝心であろう。

(3) 課題の演奏場面と頻度

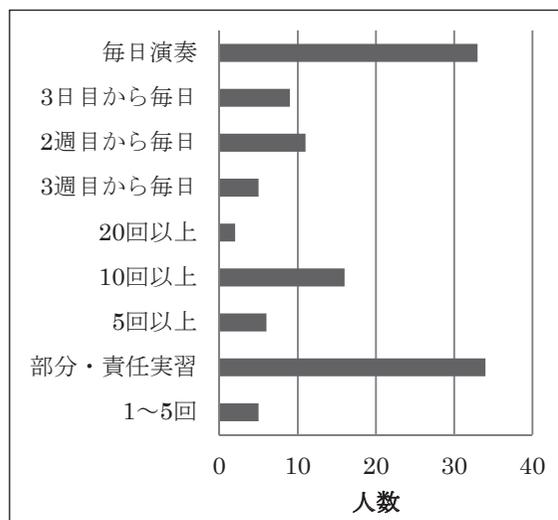


図12 ピアノ演奏の頻度

実習中のピアノ演奏についてその頻度を見ると、「実習開始から毎日行った」「2・3週目から毎日行った」などの回答が大変多い。次いで「部分実習・責任実習で行った」場合も含めると、教育実習中のピアノ演奏は、実習活動の位置付けとして重要な要素であることがわかる。ピアノ演奏回数が10回未満の場合は、全体の10名程度である。そのコメントには「園では子どもたちが沢山の歌を歌っていた」「実習生は弾きたい時の保育者に申し出る」など幼稚園での音楽活動が大変盛んに行われていることが報告された。

課題の演奏は、朝の会・昼の会・帰りの会・部分実習・責任実習で行うことが最も多く、この場合は学年毎に「生活のうた」「月のうた」を扱っているなど、音楽活動が一日の流れの節目として重要なポジションを占めていることが分かる。

最近、幼稚園の就職試験においては童謡の演奏を行わないことを前提としている園も散見される。しかし実習での音楽活動（ピアノ演奏）から、現場では子どもたちが音楽を共有することを教育の柱の一つとして取り組んでいる姿勢がみられた。

(4) まとめ

学生アンケートから抽出できたピアノの課題曲すべてを一覧としてまとめたものが、表9～11である。

表9 生活のうた

曲名	実習前	実習前・中	実習中
おねむりのうた	○	○	○
さよならのうた	○	○	
夜が明けた	○	○	
おかたづけ	○	○	
お当番さん	○	○	
むすんでひらいて	○	○	
あさのうた	○		○
おべんとうのうた	○		○
おかえりのうた	○		○
こもりうた	○		○
なんでもたべるこ	○		○
おへんじはい	○		
おててをあらいましょう	○		
おはようのうた	○		
ビーマーチ	○		
マーチ		○	
汽車ぼっぼ		○	
おきよ			○
せんせいとおともだち			○
きらきら星			○
人形の夢と目覚め			○

表10 季節のうた・童謡

曲名	実習前	実習前・中	実習中
はをみがきましょう	○	○	○
くじらのとけい	○	○	○
にじ	○	○	○
さんぽ	○	○	○
大きな古時計	○	○	
かえるのうた	○	○	
にやにゆによの天気予報	○	○	

実習に活かされる授業のあり方について

曲名	実習前	実習前・中	実習中
にじのむこうに	○	○	
おばけなんてないさ	○	○	
アイスクリームのうた	○	○	
アイアイ	○	○	
バスごっこ	○	○	
あめふりくまのこ	○	○	
かたつむり	○		○
しゃぼん玉	○		○
たなばたさま	○		○
むしばけんせつかぶしがいしゃ	○		
時計のうた	○		
すてきなパパ	○		
雨だればったん	○		
ながぐつくん	○		
おかあさん	○		
星に願いを	○		
トマト	○		
ヤッホッホ夏休み	○		
みずあそび	○		
うみ	○		
ドレミのうた	○		
おつかいありさん	○		
とんぼのめがね	○		
ふしぎなポケット	○		
手のひらを太陽に	○		
ゆりかご	○		
うたえバンバン	○		
青空マーチ	○		
めだかの学校	○		
かっぱがわらう	○		
ぼくのミックスジュース	○		
青空マーチ	○		
クラリネットをこわしちゃった	○		
世界中のこどもたちが	○		
あらどこだ	○		
人間っていいな	○		
せっけんさん	○		

曲名	実習前	実習前・中	実習中
南の島のハメハメハ		○	
バナナの親子		○	
ハンカチのうた		○	
宇宙船のうた		○	
だからあめふり			○
山の音楽家			○

表11 その他

曲名	実習前	実習前・中	実習中
園歌	○	○	
讚美歌	○		
仏歌	○		
キャンプでホイ	○		
ゆかいなまきば	○		
畑のポルカ	○		
線路は続くよどこまでも	○		
やきいもグーチーパー	○		

5. 実習の準備

実習の準備について、以下のようにまとめられた。

表12 実習準備状況

内容	人数
できていた	115名 (89.1%)
できていなかった	14名 (10.9%)
合計	129名

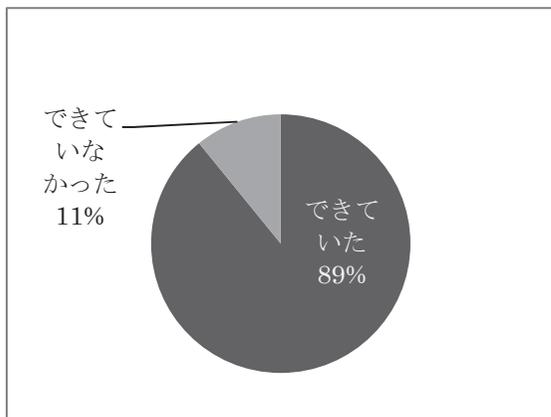


図13 実習の準備状況

次に、できていた学生の内容は以下の通りである。

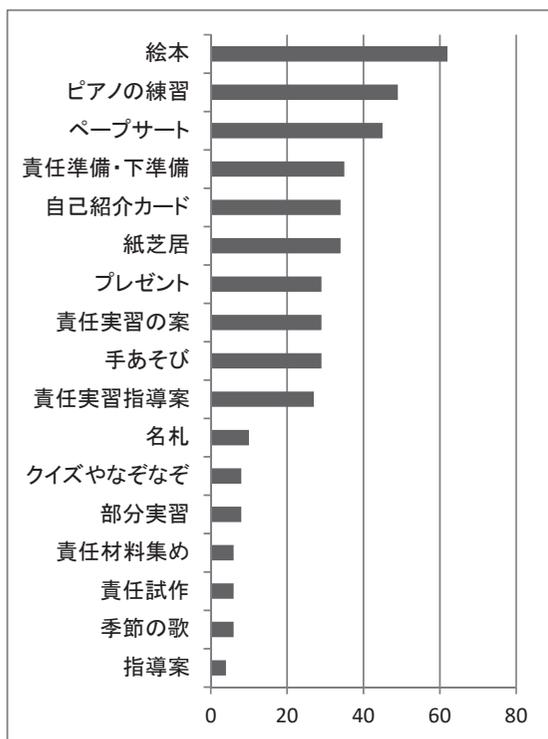


図14 実習の事前準備内容 (単位:名)

「絵本の準備」(62名)が一番多い。次に、「ピアノの練習」(49名)「ペープサート」(45名)となっ

ている。次に、「責任準備や下準備」(35名)「自己紹介カード」(34名)を用意しており、「紙芝居」(34名)と続く。「プレゼント」(29名)の準備をしている学生もいることが本調査をして初めて分かった。次いで「責任実習指導案」(29名)「手あそび」(29名)であり、「名札」(10名)とある。

以上から、前述の2. で明らかになったように、7割の学生が経験する「絵本」については、半分弱の48.1%の学生が準備できていると分かった。しかし、責任実習で弾くことがある「ピアノの練習」は38.0%の学生しか準備できていない。前述の4. であるように、「ピアノの練習」は教育実習においては必修である。また同時に、すぐに身に付くものではないため、1年次から日々継続的に学修していく必要がある。責任実習においては、「責任準備や下準備」を用意はしているものの、その指導案が採用されなかった時のことを考えて指導案をいくつも準備している学生は少ないようだ。多くの実習園の責任実習で「製作」を実践しているので、「製作」で1案、加えて「製作」もしくは他の内容で1案、年少児対象で1案を事前に立案しておくことで、「準備していたが準備が足りなかった」という気持ちを軽減することができる。

また、部分実習において、「絵本」の次に多い「手あそび」の実践にむけても準備が必要である。

次に、準備ができていなかった学生についての理由は以下の通りである。

表13 準備できていない理由

- ・ 責任実習で子どもの行動や反応の予測を立てられなかった。
- ・ 様々な場面の想定ができていなかった。
- ・ 指導案の書き直しが何度もあり、責任実習の前に十分な準備ができなかった。
- ・ ピアノ・部分実習・責任実習が実際に出来るかについて分からなかったため、準備をしておらず実習中に慌てて行った。

- ・ある程度は準備をしていたが、毎日部分実習がありレポートがすぐになくなってしまった。
- ・3歳児の活動状況がわからず、責任実習の準備が足りていなかった。
- ・実習が始まってから、絵本や手遊びの準備を行った。
- ・準備はしていたものの、クラスの人数や必要なものが揃わなかったり、絵本の用意ができていなかった。
- ・責任実習で材料を忘れてしまったことや時間配分ができていなかった。
- ・責任実習を行う対象年齢が分からなかった為に、実習中の準備となり、十分な活動を行うことができなかった。
- ・ペーパーサートなどの物作りは準備していたが、実際に子どもの前に立つと頭が真っ白になって活動が行えなかった。

準備できていない状況を以下の2つの型に分類できた。

【事前予測不足タイプ】

責任実習クラスの子どもたちの人数、行動や反応の予測が立てられないなど、事前予測や準備が足りなかったタイプ

【多忙タイプ】

指導案の書き直しや毎日の部分実習実践によって、レポート不足に陥ったタイプ

以上をふまえ、以下のような対応や準備が必要である。

- ・どのようなクラスに入るか分からないが(人数・子どもの姿)、いくつかの案を用意しておく。
- ・入園まもない年少クラスの6月の指導案も想定しておく。
- ・絵本や手あそびのリストの整理
- ・同じあそびや内容を年齢に合わせて、アレンジする。

多くの学生が、実習の準備をしっかりと行い、様々

な場面を想定し実習に挑んでいる。授業の中では、対象年齢毎に「絵本」「手遊び」「指導案」を実習前に準備することを促し、個々の学生の指導にあたっている。しかし、若干の学生については準備についての視野が狭いこと、制作は行ったが実際に活動となった場合の対処法が身につけていないこと。又、対象年齢にあった教材や素材の理解が十分でないなど、それぞれが問題点を見出し、今後の課題としていることが窺える。

V. まとめ

今回のアンケート調査によって、授業は実習に大きく反映されており、学生の100%が学びを実践に結びつけていることが判明した。現場を想定した授業の内容は、実習でさらに力を付けることになる。日々の授業に対する教員の努力と工夫が強く求められる。

部分実習の内容では、「絵本」「朝の会」「帰りの会」「手遊び」、そして責任実習の内容は「制作」が多い。この点を踏まえて各授業で、多面的な授業の工夫が求められ、学生の実践に至るまでには繰り返し身につくような反復指導が重要である。指導案の立案については、実習前に複数の指導案作成が必要である。対象年齢、内容など見本となる指導案を学生に提示することも学びをスムーズに運ぶことになるであろう。又、専門書の利用も内容を高めるために、学生に多くの資料を伝えることも望ましい。

保育実習は一年間をかけて、実習の理解と準備を行っている。一方、教育実習は2年次の4月、5月のたった2か月の準備期間のみである。いかに効率よく準備を行うとしても、あまりに短期間で準備となる。これを少しでも有効にするためには、1年次から教育実習を描けるような授業展開が大切になる。特に1年の後期では、保育実習と

並行して教育実習への準備も心がけながら折に触れ、学びへのきっかけを授業の様々な場面で実施していくとよいのではないだろうか。

教育実習は、6月に行われることから指導案の内容にも季節的な偏りがある。就職現場で即戦力となる保育や幼児教育を行うためには、対象年齢に応じた内容を自分で考え、それを応用するアレンジ力を身に付ける必要がある。授業は目前の実習を意識して展開するだけではなく、現場で活動するための力も実習の経験を通して、学びを継続していくことが重要である。

授業は実習そして保育現場への礎となることを踏まえ、即戦力となるより深い学びになるよう保育現場の状況を研究し、教員間の連携を持ちながら指導を高めていくことが望まれる。

実習に活かされる授業のあり方について

**Classes Useful in Practicums:
“Music Ⅲ ” and “Expression of Music and Performance”**

Megumi OHNO Ayaka TAGO

[abstract]

This study investigated how classes are being used in practicums based on a questionnaire administered to second year students in the Department of Early Childhood Education and Care. The survey confirmed that classes are being used in practicums: 100% of students answered that what they had learned in classes was reflected in their practicums. There is a need for teachers to make various efforts for their everyday classes.

[key words]

practicums, childcare contents “expression”, class